

令和二年 一般入試 学力検査

愛知黎明高等学校

第一時限問題 国語

検査時間 九時〇分から九時四十分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐ受験番号と氏名をこの用紙と解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(8)ページまであります。(8)ページの次からは白紙になっています。受験番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えは全て解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受験番号	第	番	氏名

— 次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

① 自分というのは、だれにとつても一番身近な存在だ。人が何を考え何を思っているのかはよくわからないし、どんな生い立ちなのかもわからない。でも、自分のことなら当然よくわかってる。そのはずなのに、改めて自分と向き合おうとすると、どうもよくわからない。「ここにいる自分」ははつきりと実感できるのに、それをとらえようとしても、どうにもつかみ所がない。「自分とは何か」という問いをめぐってあれこれ思い悩む。これがアイデンティティをめぐる葛藤だ。それに対しては、さまざまな答を出すことができる。名前、所属や社会的地位、容姿・容貌ようぼうなどの外見的特徴、学業能力・対人関係能力・運動能力などの能力的特徴、性格的特徴など、自己のさまざまな側面について答えることができる。でも、このような自己の側面をいくら並べ立てたところで、「ここにいる自分」というものは見えてこない。そうしたモザイク的に並べられた自己の諸側面の背後に、自分らしさの核心がある。そんな気がするのだが、それがつかめない。紛れもなくこの人生を生きている自分というものがいるのに、その姿をとらえることができない。

② この行き詰まりを脱するひとつの手段として、僕が提案してきたのが、自己というものを実体視するのをやめることだ。自分というものをこの身体からだをもちここにいるものとみなすのではなく、たとえば、「自分とはひとつの生き方である」とみなす。そうすると、自分を振り返るということが、非常に具体的にになり、やりやすくなる。ここでは、「自分とは何か」という問いは、「自分はどんな生き方をしているのか」とい

う問いに形を変える。自分って何だろうなどと抽象的に考えていくと、わけがわからなくなり、行き詰まってしまふ。でも、自分はどんな生き方をしているのかという問いなら、まずは自分がどんな人生を送ってきたのか振り返ればいい。そして、この先どんな人生になりそうか、自分はどんな人生にしたいのかといったことを具体的に考えてみればいい。

③ 自分をことをわかってほしいと思うとき、僕たちはどんなふう到自己を語るだろうか。ふつうは自分にまつわる過去のエピソードを語るはずだ。こんなことがあった、あんなことがあったというように、とくに自分らしさをあらわすと思われるエピソードを語っていく。それらのエピソードは個々バラバラに語られるのではなく、そこにはストーリー性が与えられる。こんなことがあって、自分はその時こんなふう思った。自分はこんな失敗を繰り返してきたけど、その背後にはじつはこんな思いがあるんだ。こんな経験をしてきたが、それがその後のこんな自分につながっている。このように、数ある過去のエピソードの中から、今のこの自分がどのようにして形成されてきたのかをわかってもらうのに最も **A** と思われるエピソード群を引き出し、それらを **B** 的に配列しながら語っていく。

④ たとえば、自分の人柄という意味での人物像について、「内気、消極的、おとなしい、控え目、気が強い、頑固、明るい、おしゃべり、ユーモアがある、よくふざける」のように、形容詞を並べて描写することもできる。でも、このような個々バラバラな要素をただ羅列しただけだと、具体的な人物のイメージが湧かない。それに対して、「自分は内気で、人見知りする方で、よく知らない人の前では消極的でおとなしく控え目にしているけれども、じつは気が強くて頑固なところがあって、親の言うことにはいちいち反発するし、また明るくユーモアがある方で、

仲のよい人たちの前ではよくしゃべり、いつも冗談を言って笑わせている」のように、各要素を具体的な場面と結びつけて描写すると、個々の要素間に有機的な結びつきができて、具体的な人物像が鮮明に浮かび上がってくる。実際、自分のことをわかっただけで人に語るときは、個々の要素をバラバラに並べるといっても、具体的な人物像が浮かび上がるように、具体的場面と結びついたり、個々の要素間につながりをつけたりして語るのがふつうだ。さらに、こんなことがあった、あんなことがあったと、具体的なエピソードが添えられることで、より生き生きとした人物像が浮かび上がってくる。

⑤ 性格心理学の生みの親とされるオールポートは、個人を深く理解するには、さまざまな性格特性（内向的、活動的、神経質など、性格を構成する要素）をそれぞれの程度もっているかを知るだけでは不十分だという。たとえば、支配性、外向性、自信といった性格特性で高得点を示したとしても、その人物が好ましい指導者なのか、それともただの傲慢な人物なのかはわからない。そこでオールポートは、個々の性格特性を結びつけて具体的な人物像を浮かび上がらせるために、日記や手紙といった個人的文書を活用する必要があるという。これは、まさに具体的なエピソードの中にこそ人物像が生き生きと表現されていることを指摘するものといえる。逆に言えば、具体的なエピソードなしに個人の人物像をつかむことはできない。

⑥ 生き方の心理学を展開したアドラーは、人が自分自身と人生に与える意味を的確に理解するための最大の助けになるのは記憶だという。記憶というのは、どんな些細な（さいさい）ことと思われるものでも、じつは本人にとって何か記憶する価値があるのだ。ゆえに、自分にまつわるエピソードを思い出し、語るとき、重要なのはエピソードそのものではなく、そのエ

ピソードがとくに記憶され、想起され、語られたということなのだ。そのようなエピソードには、本人の生き方が反映されている。そのエピソードが本人の人生の流れの中で何らかの意味をもつからこそ、わざわざ記憶され、想起され、語られるのだ。

（榎本博明『自分らしさ』って何だろう？』による）

〔注〕○①～⑥は段落符号である。

- アイデンティティ＝自己同一性。一貫した自己・自我の意識のこと。
- 葛藤＝心の中に相反する動機・欲求・感情などが存在し、そのいずれかをとるか迷うこと。
- 容貌＝人の顔立ちのこと。
- モザイク＝ここでは、寄せ集めという意味。
- 有機的＝生き物のように、多くの部分が密接なつながりをもちながら、全体を形作っていること。
- オートポット＝アメリカの心理学者。
- アドラー＝オーストリア出身の精神科医。心理学者。

（一）① 改めて自分と向き合おうとすると、どうもよくわからないとあるが、筆者がこのように考える理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 自分らしさの核心に迫るために挙げるさまざまな自己の側面を完璧に挙げるのが不可能に近いから。

イ 自分のあらゆる側面について挙げることはできても、自分らしさについて具体的に答えることにはならないから。

ウ 人間とは常に進歩している存在なので、自己のあらゆる側面が日々

変化して自分についてはつきりとらえられないから。

エ 自分というのが一番身近な存在であるがゆえに、自分というものが何であるかを考えるための適当な比較対象がないから。

(二) ② この行き詰まりを脱するひとつの手段 とあるが、その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 自分の理想的な生き方を具体的に想像し、今までの自分の生き方を反省すること。

イ 自分のさまざまな要素から普遍的なものが何かを具体的に見つけ出すということ。

ウ 自分について漠然とした問いからはつきりした具体的な問いで考えてみるということ。

エ 今の自分について考えるのではなく、将来どのようになるかを具体的に考えてみるということ。

(三) [A]と[B]にそれぞれあてはまることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア A 有効 B 効果

イ A 適切 B 具体

ウ A 効果的 B 実践

エ A 具体的 B 理想

(四) 筆者は第四段落で、自分の人物像を具体的に説明する方法について筆者自身の考えを述べている。それを要約して、七十字以上八十字以下で書きなさい。ただし、「要素」「羅列」「人物像」という三つのことばを使って、「自分の人物像を伝えるには、……」という書き出しで書く

4

ウ 一生分の力をそそぐことが、その道の達人になる一番の近道である。

エ 一生懸命取り組めば、他人の一生分の力を一年半年で発揮することができる。

9

こと。三つのことばはどのような順序で使ってもよろしい。

(注意) ・句読点も一字に数えて、一字分のマスを使うこと。

・文は、一文でも、二文以上でもよい。

・次のページの枠を、下書きに使ってもよい。

(五) 次のアからエまでの会話は、この文章を読んだ生徒五人が意見を述べ合ったものである。その内容が文章に書かれた筆者の考えと合っていないものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア(Aさん) 私は「自分らしさ」について悩んだことがある。そのときは、それが何なのか答えがわからなかった。しかし、筆者が言うように「今までどんな生き方をしてきたのか」ということから、自分について考えるというのは、とてもわかりやすい考え方だと思った。

イ(Bさん) 「自分とは何か」というのはとても身近なテーマだと感じた。「自分自身を知る」ということは「自分がどう生きたか」ということに関わってくる。自分のエピソードから自分の生き方や考え方がどう間違っていたか検証するという筆者の意見はとても重要なことだと感じた。

ウ(Cさん) 筆者が「人物像を伝える」方法として説明した「個々の要素」がオールポートの「性格特性」に、「有機的な結びつき」が「日記や手紙と言った個人的文書」につながっている、筆者の説明がオールポートの説明でより具体的に

なっていると感じた。

エ(Dさん) 「自分を伝える」ためには、自分の地位や肩書きなどより具体的なエピソードを語った方がわかりやすい。筆者が心理学者であるオールポートやアドラーの意見を紹介するこ



三 次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

- ① カー用品の専門店「イエローハット」の創業者で、「日本を美しくする会」の①鍵山秀三郎さんは、新聞・社会面の暗いニュースは読まないそうだ。理由は、「そういう記事を読んでも、それが後々自分の人生に何か参考になるとは思えないから」なるほど。特に朝刊は、朝起きて、一番最初に脳にインプットする情報である。朝といえば、睡眠によって前日の疲れが取れ、さわやかに目覚める時間だ。「昨日はいろいろ嫌なことあつたけど、今日は頑張ろう！」と、②心機一転して布団から跳ね起き、「今日も一日よろしくお願いましませう」と神棚に二礼して、パンパーンと拍手を二度打って1日のスタートを切る。A、おいしい朝ごはんを感謝しながら食べた後、お茶を飲みながら新聞を広げる。
- ② すると、殺人事件やら政治家の汚職事件の活字が飛び込んでくる。テレビをつけると、みの某氏が「ほっとけない！」と怒りながら、悲惨な殺人事件を事細かに報道したり、タレントの覚せい剤問題を執拗に追いかけている。③こういうとき、そのテレビを観ている自分に悲しくなる。やっぱりタダで観れる民放の番組も、わざわざお金を払って読む新聞も、情報は受け手がきちんと取捨選択して、本当に必要な情報を得たものである。
- ③ とは言っても、我々凡人の心の中には、他人の不幸を「おもしろい」「覗きたい」と思う心理がある。B、鍵山さんのように「いつも心をきれいに」「いつも身の回りをきれいに」と心掛けていないと、ついつい他人の不幸やプライバシーを酒の肴にして会話を弾ませてしまいがちだ。
- ④ さて、格差社会といわれている昨今だが、1日24時間という時間は、す

6

- ウ そのような記事を読んでも、自分の人生の参考になるとは思えないから。
- エ そのような記事を読んでも、自分の人生の教訓として、今後の人生にいかすことができないから。
- (二) A B にはまる最も適切なことばを、次のアからキまでの中からそれぞれ選んで、そのかな符号を書きなさい。
- ア やがて イ せめて ウ むしろ エ しかし  
オ そして カ だから キ たとえば
- (三) ②心機一転 とあるが、この四字熟語の意味として適切なものを次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。
- ア あることを契機にして気持ちがすっきり変わることを。  
イ 嫌な気持ちが一新して明るい気分に変化すること。  
ウ 千年に一度しかめぐりあえないほどまれなこと。  
エ 統一がなく、ばらばらでまとまりがないこと。
- (四) ③ こういうとき、そのテレビを観ている自分に悲しくなる とあるが、その理由として最も適当なものを次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。
- ア その情報を得ることで、1日の始まりを気持ちよくスタートすることができず、不愉快な気分になるから。  
イ その情報を得ることが、人々にとって大切な事であり、自分の経験値になるから。  
ウ その情報を得ることが、自分自身にとって必要がなく、自分にとって本当に必要な情報のみ得たいから。  
エ その情報を得ることで、世間の情勢を理解することができ、豊富な知識を得ることができるから。

7

べての人に平等に与えられている。24時間はただ物理的な時間に過ぎないが、④その時間を豊かな時間にするか、つまらない時間にするかは、その人の心掛け次第だろう。たとえば、朝、新聞を読む時間が20分あるとして、その中で心が温まるような記事の一つでも見つけることができたとしたら、その物理的な時間はその人にとって情緒的な時間になる。「暗いニュースは読まない」という鍵山さんも、たとえ小さくても心が温まる記事が目が止まると、切り抜いて保存しているという。「そういう記事は繰り返し読んでも心にほのぼのとした感動を与えてくれます」と。

- ⑤ 改めて、人生に役立つ情報というのは、探そうとする意思がないと出会えないものだと思った。受信機としての機能を持つ私たちの感性も常に磨いておくことが大事だ。鍵山さんはトイレ掃除をしながら、その感性を磨いている。だから、いつも謙虚。謙虚だからいい情報をキャッチできるのだろう。「身の回りをいつもきれいに」と心掛けていると、1日の多くの時間を心豊かに送れるのかもしれない。

(注) ①～⑤は段落符号である。(『日本一心を揺るがす新聞の社説』による)

- (一) ① 鍵山秀三郎さんは、新聞・社会面の暗いニュースは読まないそうだ とあるが、その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。
- ア そのような記事を読んでも、面白味を感じることがなく、今後の人生にいかすことができないから。  
イ そのような記事を読んでも、今日1日が良い日になるとは思えないから。

- (五) ④ その時間を豊かな時間にするか、つまらない時間にするかは、その人の心掛け次第だろう とあるが、具体的にはどのようなことか。最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を答えなさい。
- ア 1日24時間という時間は誰にも平等に与えられているものであり、とにかく時間を大切にしなければいけないということ。  
イ 1日24時間という時間は誰にも平等に与えられているものであり、自分の趣味や娯楽などで過ごす1日は格別に楽しいということ。  
ウ 1日24時間という時間は誰にも平等に与えられているものであり、自分にとって必要な情報を得ることで、大切な時間を過ごすことができるということ。  
エ 1日24時間という時間は誰にも平等に与えられているものであり、その中で様々な人々と出会うことが、大切ということ。

- (六) 次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれた筆者の考えに近いもの一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。
- ア 1日24時間という時間は皆平等に与えられたものであるが、その時間の使い方は人によってさまざまである。  
イ 朝のニュースを観ると1日のスタートを気持ちよく始めることができる。何事も、スタートダッシュをきることが大切である。  
ウ 毎日を生活していると、色々な情報を得ることが出来るが、自分にとって必要な情報だけを得たい。なぜならば、それが自分の人生の参考になるからである。  
エ 日常生活の中で一番大切にしていることは、「時間を大切にすること」である。なぜなら、1日24時間は誰にも平等に与えられているものだからである。